

第2章 最終評価の目的と方法

I 最終評価の目的

健康おきなわ21（第2次）の計画期間の終了時にこれまで実施した事業や取組の評価を行い、評価の過程で提起された課題等を踏まえ、その後続く健康づくり対策の推進に反映させることを目的として最終評価を実施した。

II 最終評価の方法

（基本的な考え方）

- ・ 目標に対する実績値や取組の評価を行う。
- ・ 評価結果をもとに、健康おきなわ21（第2次）の総合的な評価を行う。
- ・ 次期計画策定に向けて検討の視点や方向性について整理する。

様式1を用いて、各目標項目における目標に対する実績値の評価を行う。関連する取組の整理や、各目標項目の評価を踏まえた領域全体の状況、今後の課題について整理する。

II-1 目標に対する実績値の評価方法について（様式1）

各目標項目（◎84項目）について、計画策定時（又は中間評価時）の値と直近の値を比較し、目標に対する数値の動きについて、分析・評価を行う。

（1）直近値に係るデータ分析

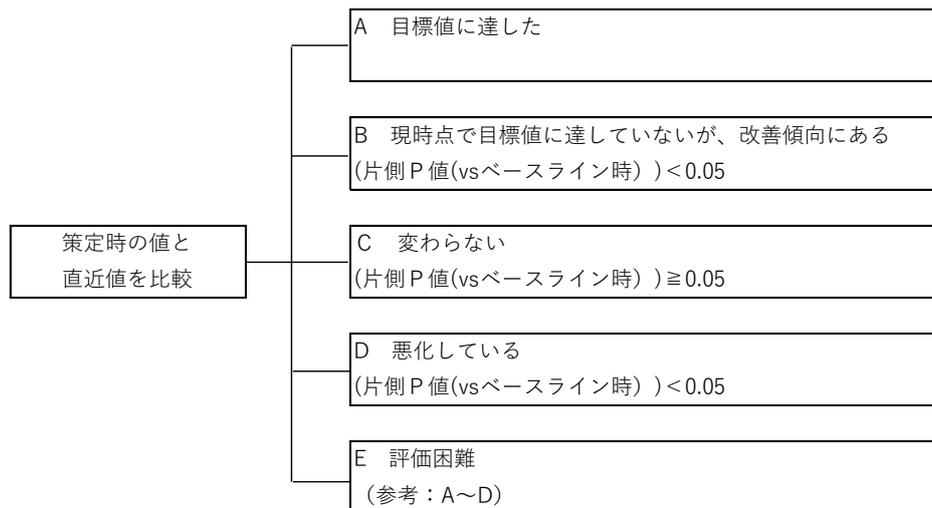
- ・ 直近値が、目標値に対してどのような動きになっているか分析する。有意差検定を行った場合は結果を様式1に記載する。
- ・ 計画策定時のベースライン値と直近値の比較に当たっては、原則として有意差検定を実施し、その際の数値の変化がわかる図をあわせて作成する。（様式1に添付）

（2）調査・データ分析に係る課題

- ・ ベースラインから指標や目標値が変更になっている目標項目や、直近の指標のデータが把握できない項目等に関しては、代替となる指標や調査結果等を用いて分析を行う。
- ・ 各目標項目の評価に当たっては、実績値の経年的推移や関連する調査・研究等の動向があれば補完的に活用する。
- ・ 直近値については、把握できる最新の値を当てる。

(3) 分析に基づく評価

- ・直近の実績値が目標に達したか、達していないかを記載する。
- ・目標に達していない項目については、目標に向けて改善傾向にある、変わらないまたは悪化しているなどを簡潔に記載する。
- ・改善している項目については、目標の到達に向けて予測される値の動きと比較して、順調に推移しているか等を記載する。
- ・評価については、以下のとおりA、B、C、D、Eの5段階で評価する。



※「B 現時点で目標値に達していないが、改善傾向にある」のうち、設定した目標年度までに目標に達しそうなものを「B」、目標達成が危ぶまれるものを「B*」として評価する。(指標の評価に当たっては直近値がベースライン値と目標値を結んだ線の上か下かで判定する。)

※一つの目標項目の中に、複数の項目がある目標項目に関しては、まず各項目に関してA、B、C、D、Eの5段階で評価する。そのうえで、A=5点、B=4点、C=3点、D=2点と換算して平均を算出し(小数点以下五捨六入、Eは除く)、目標項目全体としても5段階で評価する。各項目に男女別や年齢別の指標がある場合についても、各々同様に平均を算出することで項目毎の評価を行う。

(例) タバコ (評価は仮定のもの)

◎成人の喫煙率の減少

男性 → 評価：B 女性 → 評価：C

平均の算出： $(B + C) / 2$ 項目 = $(4 + 3) / 2 = 3.5$ → 3 : C

- ・目標項目全体の評価としても、設定した目標年度までに目標に達しそうなもの(目標年度にAになりそうなもの)を「B」、目標達成が危ぶまれるものを「B*」として評価する。

(例)

A + B → 目標年度にA + Aで全体としてAになる見込み → 「B」と評価

A + B* → 目標年度にA + Bで全体としてBになる見込み → 「B*」と評価

- ・E評価の項目のうち、参考値が得られ統計分析が可能であったものについて分析を行い、その結果を参考として()内に記載する。

II-2 関連する取組状況を踏まえた分析と今後の課題の整理 について（様式2）

（1）領域ごとに◎目標項目の評価状況をまとめる。

- ・あわせて目標項目の状況を示す図を作成し、添付する。

（例） （評価は仮定のもの）

評価	項目数
A 目標値に達した	0
B 現時点で目標値に達していないが、改善傾向にある	0
B* Bの中で目標年度までに目標到達が危ぶまれるもの	0
C 変わらない	2
D 悪化している	0
E 評価困難	1

目標項目	評価
◎生活習慣病のリスクを高める量を飲酒している者の割合の減少	C
◎未成年の飲酒をなくす(15～19歳)	C
男性	(C)
女性	(C)
◎妊娠中の飲酒をなくす	E

（2）関連する取組

- ・各目標項目に係る取組、領域全体に係る取組、その他関連する取組について記載する。

（3）各目標項目の評価に係る分析及び領域全体としての評価

- ・指標の改善や悪化等の状況と取組の関連を考察する。
- ・各目標項目の評価を踏まえ、領域全体としての評価も記載する。

（4）今後の課題

- ・（1）～（3）の結果等から、今後、充実・強化すべき取組の整理を行う。
- ・新型コロナウイルス感染症流行の影響を受けていると想定される領域においては、新型コロナウイルス感染症の影響に言及する。
- ・健康格差（地域や社会経済の違いによる集団における健康状態の差）が懸念される項目や領域においては、健康格差の縮小に向けた視点からも言及する。

健康おきなわ21等最終評価及び次期計画策定にかかる総括委員会及び分野別委員会を設置し、委員会において意見聴取をおこない、最終評価を実施する。